



特集

特集 I 半導体で地域を興す

熊本を、半導体集積モデル地区に！

特集

特集
Ⅱ 熊本大学のアントレプレナーシップ教育



マンズフェルト
古城医学校 教師

1866(慶応2)年、オランダ海軍の軍医から長崎精得館に赴任した。1871(明治4)年、熊本藩から招かれて古城医学学校に赴任した。西洋医学の教師カリキュラムを確立した。熊本では130余人が教えを受けた。



北里 柴三郎
細菌学者 近代日本医学の父
古銭学校 1871(明治4)年入学
マンスフェルトの勧めで1874(明治7)
年東京医学学校へ進学、卒業後ドイツに留
学。コッホ博士に師事して研究、1889
(明治22)年 結核菌の検出培養に
成功し、血清療法を確立した。帰国後は私
立伝染病研究所や結核治療専門病院を
設立して細菌学の実証に貢献し、日本医
学会の創設など近代日本の予防医学の
礎を築いた。



高納 治五郎
数学者 漢道家
第五高等学校
三代校長 1891(明治24)年～
1893(明治26)年在職
191(明治24)年第3代第五高等学校
に就任、離任後、第一高等中学校
省普通学務局長、東京高等師範
校長などを歴任。1892(明治15)年
旅館を開いて漢道を指導し、普及に
つとめる。1909(明治42)年国際オリ
ンピック委員となった。



ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)
第五高等学校
外国人教師 1891(明治24)年～
1894(明治27)年在職
1890(明治23)年来日し、島根県尋常
学校の教諭となる。1891(明治24)年
第五高等学校に赴任、3年余りの間
の中で、「知られぬ日本の面影」、「
国から」、「心」等多くの著作を執筆
した。第五高等学校で行った講演「
将来」は、熊本大学構内の碑に刻ま
れている。



夏目 漱石
第五高等学校
英語教授 1896(明治29)年～
1903(明治36)年在職
1896(明治29)年第五高等学校に赴任
1900(明治33)年又第五高等学校から英語研究
のため2年間のイギリス留学を命じられ
ロンドンへ赴く。1903(明治36)年帰
国後、第一高等学校、東京帝国大学
となるが、作家に転じ生涯を通じて多
くの作品を発表した。「草枕」「吾輩
の青春」は、熊本時代の経験をもと
に書かれたものである。



宇良田 篤
日本女性初の医学博士学位を取得
熊本薬学校 1892(明治25)年卒業
薬剤師となったのちに堅船強の末、
者になった。北里柴三郎の門下生とな
1905(明治38)年マルブルク大学(イ
イツ)にて日本女性初の医学博士学
[ドクトル・メディツィーネ]を取得。帰
後は眼科、内科、産科などの治療に生
をささげた。



犬塚 球溪
詩人 作詞家 教育者
熊本県師範学校 1901(明治34)年卒業
1905(明治38)年東京音楽学校甲種師範科卒業。兵庫県立新原中学校を経て
1906(明治39)年新潟高等女学校
1908(明治41)年熊本県立高等女学校
1918(大正7)年人吉高等女学校に勤務した。「旅愁」「故郷の霧家」をはじめ生涯に250曲ほどの西洋歌曲の翻訳作詞を遺した。



熊本大学関連年表

江戸 明治

- 1871 熊本洋学校開設(1876廃止)
- 1871 麻瀬橋開
- 1870 ● 医学兼病院開設(會立 通称 古戦医学校)1873廃止
- 1867 大政奉還 土岐源古の大司令
- 1757 ● 再春閣附属英學館 幕末開設
- 1756 ● 熊本藩医学校 再春閣創設

大正

1914 ● 熊本興師學校 第一師範學校 第二師範學校に改組
1911 ● 熊本興女子師範學校に改組
1910 ● 私立九州実業専門学校に改称
1909 ● 熊本高等工芸学校機械実業工場 竣工
1908 ● 私立九州実業学校開校
1906 ● 熊本高等実業学校開校(舊立第五高等実業学校工部部 独立)
1904 ● 熊本医学専門学校 私立に改称
1904 日露戦争は止まる

昭和

- 1914 第一次世界大戦はじまる
- 1922 熊本医科大学・農立（に昇格）
- 1926 熊本農学校付設農林部職員養成所（所立）設置
- 1929 熊本医科大学・官立（に移行）
- 1936 熊本専門学校・官立（に改組）
- 1935 熊本養育専門学校・官立（に改組）
- 1934 熊本工業高等専門学校再建（1932年本館設立後）
- 1923 関東大震災

● 医学部 前身校 ● 法学部 前身校 ● 文学部 法学部 理学部 前身校 ● 工学部 前身校 ● 教育学部 前身校

熊本大学広報誌

熊大通信

vol. 94
2025 WINTER

Kumamoto University Campus Magazine

- | | | | |
|----|---|----------------------|--|
| 01 | — | 熊本大学五高記念館の「熊本大学関連年表」 | 妻・セツを伴い五高に赴任した小泉八雲 |
| 03 | — | 特集Ⅰ | 半導体で地域を興す
熊本を、半導体集積モデル地区に！ |
| 11 | — | 特集Ⅱ | 熊本大学のアントレプレナーシップ教育 |
| 17 | — | 研究室探訪 | 「運動は楽しい！」生涯そう思い続けられるよう
子どもたちを体育好きに
～熊本大学大学院教育学研究科
未永研究室 |
| 19 | — | 卒業生ジャーナル | |
| 21 | — | 熊本大学 ネーミングライツパートナー募集 | |
| 22 | — | 熊本大学基金よりお知らせ | |
| 23 | — | キャンパス
ミュージアム散策 | 赤い壁 |

※記載されている職名や学年等は、取材時のものです。

【発行】 国立大学法人 熊本大学
〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1
【総務部総務課広報戦略室】
Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3110
sos-koho@ijmu.kumamoto-u.ac.jp

【編集】 熊大通信編集委員会
首藤 剛 / 委員長 広報担当副理事
(大学院生命科学研究部(薬学系)准教授)
宮尾千加子 / 理事(非常勤) / 広報・ブランディング・行政連携担当)
松岡 浩史 / 大学院人文社会科学部(文学系)准教授
濱田 絵美 / 大学院人文社会科学部(法学系)准教授
山田 勝雅 / 大学院先端科学研究部(理学系)准教授
寺崎 秀紀 / 大学院先端科学研究部(工学系)教授
中村 五月 / 大学院生命科学研究部(保健学系)准教授
倉内 祐樹 / 大学院生命科学研究部(薬学系)准教授
松永 拓己 / 大学院教育学研究科美術科教育 教授
廣田 孝史 / 総務部総務課副課長(広報戦略室長)

〔制作〕 株式会社城野印刷所



A horizontal strip of 12 small photographs showcasing different parts of the university campus. From left to right, the images depict: a traditional-style building; a large hall or auditorium; a modern building with solar panels on its roof; a parking lot with cars; a multi-story academic building; a courtyard area; a building entrance; a paved walkway lined with trees; a red brick building; a large modern building with a glass facade; a building with a prominent clock tower; and another view of a campus building.

令和

- 2025年4月に設置された、熊本大学五高記念館の「熊本大学関連年表」

熊本大学黒髪北キャンパスにあるラフカディオ・ハーンの碑

半導体で 地域を興す

熊本を、半導体集積モデル地区に！

世界有数の半導体メーカー進出以来、半導体に沸く熊本。

しかし、半導体メーカーやその周辺産業が盛り上がるだけではいけません。

半導体を糧に地域全体が活性化し、

そんな熊本を「半導体集積地のモデル地区」として全国に発信。

そこから、九州、ひいては日本全体を

耐久力や回復力に富む、強靱かつ持続可能な地としていく。

熊本大学はそんな明確なビジョンを描き、

大きな覚悟をもって新たな道を進み始めています。





「半導体なら熊本」と言われる その日を目指し挑む、熊本大学

今、多くの半導体メーカーや関連企業、そして人材が熊本に集まってきています。その背景はもちろん、世界有数の半導体メーカー TSMCが熊本に進出したこと。しかし理由はそれだけではありません。そもそも熊本県には古くから半導体や半導体関連企業が集積し、1980年代の「シリコンアイランド九州」を支えました。その「知」や「人材」が今も熊本県に多く存在しているからこそ、日本の半導体産業復活が求められる今、熱い視線を集めているのです。

現代テクノロジーに欠かせない半導

体にはさらなる高性能が求められており、その研究と社会実装を社会は要請しています。しかしそれは、大学や企業が単独で担えるものではなく、「共創」が不可欠。かかわるすべての組織や人をつなぎ共創を促す役割を担えるのが、熊本唯一の国立総合大学として、人文社会系、理工系や医薬系など、様々な学問分野の研究・教育を担ってきた熊本大学です。

しかし、熊本大学が見据えているのは、半導体技術力の向上や半導体産業振興だけではありません。半導体の追い風が吹く今、それを的確にとらえて

進み、熊本全体が振興しなければ意味がない。

熊本大学が目指すもの。それは、半導体を糧にした地域創生です。

「半導体なら熊本」と、企業も優秀な人材も集まってくる。そうなれば、熊本の地域全体が活性化していくことは間違いありません。そして、熊本が、日本の地域創生の「モデル」となる。熊本大学はそんな未来を見据えて、様々な事業や取り組みを進めています。



国の事業「J-PEAKS」にも採択
驚異的スピードで進む新しい取り組み

半導体の追い風をつかみ 帆を上げ進む 熊本大学の覚悟

地域創生において、その役割を担える存在としてますます期待されているのが地方大学です。また、日本の研究力をもう一度向上させるため、地方大学が持つ強みをさらに生かす必要性も叫ばれています。そんな中、半導体をキーワードに、国や地域からも大きな注目を集めているのが熊本大学。驚異的スピードで進む変革や新たな取り組みについて、小川久雄学長が語ります。

熊本大学 学長
小川 久雄
Hisao OGAWA



最大55億円の助成金 文科省「J-PEAKS」に採択

2025年1月、熊本大学は令和6年度の文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に採択されました。Program for Forming Japan's Peak Research Universitiesといい、略称を「J-PEAKS」とする事業です。

本学が「J-PEAKS」採択事業で様々な取り組みを進めたうえで目指す10年後の姿は、「半導体集積地のモデル都市構築を先導し、世界中から多様な人材が集まる研究教育大学」。そのうえで「半導体実装から社会共創研究を通じて、地域イノベーションの実現と持続可能な産業都市構築を目指す」ことを掲げています。半導体集積地のモデル都市になるという、わかりやすくはっきりとした目的に対し高い評価をいただいたことも、採択につながったと聞いています。

J-PEAKS採択事業に示す熊本大学の戦略は大きく三つ。一つ目が、「半導体三次元積層技術の確立・関連産業支援」です。半導体は現在、より小さくする研究が進められて

いますが、本学では半導体を積み重ね、より大容量かつ高速で低消費電力を可能にする三次元積層技術研究に力を入れており、専門の研究者を積極的に招いています。

二つ目が「社会共創研究の推進」です。ユーザー産業の創出や異分野融合研究を産学官が協力して進める体制を構築します。熊本県は半導体で沸く一方で、水を多く使うことや、企業が集積することによって起こる交通渋滞に対する懸念の声も上がっています。本学には長年熊本の水循環を見ている研究者や、交通やまちづくり研究を専門とする研究者も在籍しており、J-PEAKS採択事業には、こういった研究テーマも含まれています。

そして三つ目が、「研究基盤の整備」です。研究は、大学だけではなく地域産業と一緒に進めるべきであり、地域の企業と本学がお互いの技術や研究機器を相互活用する必要があります。1980年代の「シリコンアイランド九州」を支えた技術者たちが熊本に残っており、彼らとともに研究を進めることも本学にとって有益だと考え、戦略に掲げています。

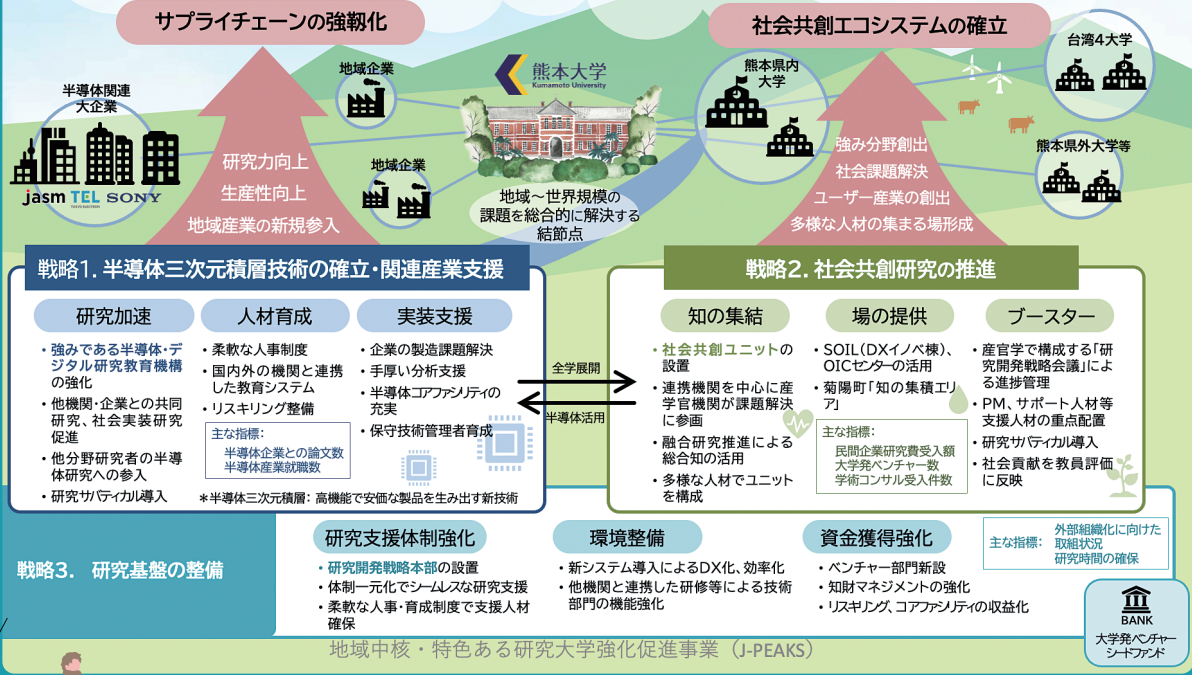
新棟や新学部・学科も創設 地方国立大学として稀有な勢い

現在、全国の地方大学は大きな変革期にあり、J-PEAKSのような支援事業にも表れているように、国もそれを力強く後押ししています。その中でも熊本大学は、寄せられる期待のもと非常に勢いづいている状況にあります。

まずは、半導体関連の施設であるSOIL（Semiconductor Open Innovation Laboratory）とD-Squareの2棟が建てられたこと。SOILは企業や他大学、研究機関が共同研究を進めるオープンイノベーションの場で、東京大学をはじめとした他大学の分室もSOILに入居し研究を進めています。一方、D-Squareは教育の場。2024年度に創設された情報融合学環と、工学部の半導体デバイス工学課程の学生たち、また、リカレント教育として社会人学生も学んでいます。

D-Squareを活用している情報融合学環は、本学にとって実に75年ぶりの新学部創設となりましたが、2026年度はさらに共

10年後の大学ビジョン：半導体集積地のモデル都市構築を先導し、世界中から多様な人材が集まる研究教育大学へ
半導体実装から社会共創研究を通じて、
地域イノベーションの実現と持続可能な産業都市構築を目指す



創学環が誕生します。経営やマネジメント、データサイエンスから生命科学まで、特定分野にとどまらず学ぶことができる文理融合学環として学内外から期待を集めています。

そして、教える体制の充実も不可欠。半導体経済学の権威であり、国の半導体デジタル政策の専門家でもある若林秀樹先生は、卓越教授として2025年4月から本学でMOT (Management of Technology) という、ビジネスの観点を含めた半導体教育をしてくださっています。若林先生は「熊本がおもしろそうだ」と、自ら希望して赴任してくださいました。大企業のトップですらこぞって受けたいと思う若林先生の講義を、本学の学生は受けることができるのです。ほかにも、2026年度創設予定の熊本大学半導体リスキリングセンターには、元キオクシア株式会社の青木伸俊特任教授が就任。実機と計算機シミュレーションを組み合わせ、半導体技術を根本から理解する教育を柱とし、業界の今後や技術経営に対する学びにも力を入れる予定です。J-PEAKS採択事業でも、半導体・デジタル

研究教育機構の教員を24名から60名に増やすこと、特に若手や女性教員を増やすことを掲げています。

半導体関連施設を2棟も新設し、わずか3年の間に2学環1課程を創設、そしてこれほどの教員や研究者が集結し始めていること、このスピード感は、国立大学では非常に稀有なことであり、それだけ、熊本大学が期待されているからだと考えています。

半導体ユーザー産業創出や社会課題の解決も担う

「半導体集積のモデル都市」となるには、半導体だけではなく、半導体のためのサプライチェーン構築が不可欠です。大学、企業、金融機関や政府などが連携し、継続的にイノベーションを起こすエコシステムを確立する。地域産業の生産性と技術力が向上し生まれる、レジリエンスでサステナブルな、地域住民が安全安心に暮らせる地域。これが理想とする「半導体集積のモデル地区」です。

そのためには半導体産業だけでなく、半

導体を使うユーザー産業の創出も重視しています。半導体は様々な分野で使われていますが、新しいユーザー産業を生み出し、かつ、人材不足や環境負荷などの課題を総合的に解決する結節点となる役割も必要です。そこには、様々な分野の研究を長きにわたり進めてきた熊本大学の力が役立てられるはず。たとえば、今の研究者たちには、研究費は自ら獲得すべき、というトレンドがありますが、熊本大学は、我が国における代表的な研究費である科研費の獲得実績の面でも非常にすばらしい大学だと自負しています。

熊本は今、半導体で盛り上がりを見せていますが、熊本県外で一般的には、まだ「熊本＝半導体」という意識が醸成されているわけではありません。しかし、私たちが想像する以上の企業や人が国内外から熊本にやってきています。優秀な人材が熊本に残るだけでなく他所からも熊本にやってくる、企業も増えて、熊本という地域から日本全体を盛り上げる。熊本大学は、そんな未来を創造します。

SOIL & D-Square

熊本県の半導体・デジタル研究 & 教育拠点

新棟稼働開始！

2025年春、熊本大学黒髪南キャンパスに完成した新棟「SOIL」と「D-Square」。
9月に正式オープンし、10月から本格稼働が始まりました。
総事業費約36億円をかけて建設された2棟について、大谷順理事に伺いました。

皆が集い、コトを興す拠点 SOILとD-Square

連携しイノベーションを起こす場「SOIL」

SOILは「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」に採択され建設されました。熊本大学と企業や研究機関、他大学が集まり共同研究を行うオープンイノベーションの場です。

熊本は以前から半導体産業が盛んで、今も130社以上の半導体関連企業が集積。それら企業には大企業もあれば中小企業もあり、半導体そのものを製造しているばかりではなく、その関連産業也多岐にわたっています。SOIL建設にあたっては、熊本大学の関係者が各企業を回り必要な装置や教育についてお尋ねし、そのニーズに合わせた設備や機械をSOILに導入。熊本大学だけにしかない貴重な研究・実験装置もあり、海外からも使いに来ていただける場となっています。企業が長期入居することも、設備をスポット利用すること

も可能。多くの企業や研究機関が熊本大学の研究者らとともに、最先端研究から実装研究まで、様々な共同研究を進めます。

高度人材育成の場「D-Square」

D-Squareは「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化支援事業」に採択され建設されました。大学院自然科学教育部に新設された半導体・情報数理専攻の大学院生たちの研究の場、情報融合学環における地域・企業と連携した教育およびリカレント教育の場に活用されている、デジタルと半導体人材育成の拠点です。D-SquareはSOILとつながっており、学生たちには、すぐそばで世界最先端の半導体研究が進められていることを肌で感じ刺激としてほしいと考えています。もちろん、SOILは民間企業がかかわるため、高いセキュリティが確保されています。

半導体with「何」が重要

半導体研究や教育に関しては、半導体そのものだけでなく、半導体とともにどんな分野の研究を進展させるかを重視しています。その野が広い半導体は様々な分野に応用が可能。具体的に言えば、半導体with医学・薬学、半導体with人文学などがあり、その中ではAIやデータサイエンスも重要なキーワードとなってきます。またSOILには東京大学や東北大学の分室も入居。たとえば、東北大学は量子コンピューターを扱っておられ、これは本学の医学部でも使っていて、連携することで研究がさらに発展すると期待しています。SOILとD-Squareを拠点に、半導体をドライビングフォースとしてあらゆる分野の研究および教育を広げていかなければならないと考えています。



SOIL内のスーパークリーンルーム

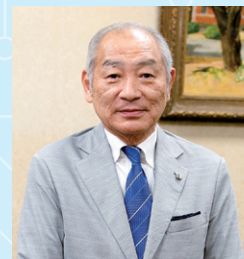


D-Square側から見た2棟

D-Squareの講義室

大谷 順
Jun OTANI

熊本大学
理事・副学長



DATA ■SOIL

- ◎名称／ Semiconductor Open Innovation Laboratoryの頭文字
- ◎5階建て／延べ床面積約3,000平方メートル
- ・電子顕微鏡室、共通機器室等(1F)
- ・大学分室(2F)
- ・レンタルラボ(2～4F)
- ・会議室(4F)
- ・クリーンルーム、機器室(5F)

- ※レンタルラボは長期間利用、試作装置や評価、分析機器はスポット利用可
- ※利用資格は熊本大学教職員および学生(1,000円/月・㎡)、熊本大学と共同研究契約を結んでいる企業等、熊本大学発ベンチャー、連携協定を結んでいる企業等(2,000円/月・㎡)
- ◎問い合わせ／熊本大学研究・社会連携部 産学連携推進課
Tel:096-342-2044
E-Mail:sangaku-keiri@jim.kumamoto-u.ac.jp

DATA ■D-Square

- ◎名称／ Dは、Digital、Data、Device、Diodeなどの頭文字、Squareは交流の場を表しています
- ◎6階建て／延べ床面積約3,700平方メートル
- ・情報融合学環講義室・演習室(1F～3F)
- ・半導体、情報数理専攻大学院生オープンラボ(4F～6F)
- ・教員研究室(3F～6F)
- ・ダイバーシティに対応した施設を完備(授乳室、お祈りのためのスペース等)

大学間連携にも期待！

半導体のオープンイノベーション拠点SOILには、熊本大学が連携協定を結ぶ他大学の分室も入居しています。

今回は、東京大学ナノシステム集積センターの連携拠点「東大分室」を紹介します！



笠間敏博特任教授と中村有沙客員助教



笠間 敏博
Toshihiro KASAMA

東京大学大学院 工学系研究科
バイオエンジニアリング専攻 特任准教授
熊本大学 半導体・デジタル研究教育機構 特任教授



中村 有沙
Arisa NAKAMURA

東京大学 工学系研究科
総合研究機構 一般技術職員
熊本大学 大学院先端科学研究部
客員助教

分室という場を拠点に 新しい「化学反応」が起こる！

—東大分室には、東京大学のお二人が常駐しています。まずは自己紹介を。

笠間 東京大学では、工学系研究科のバイオエンジニアリング専攻に所属しています。主な研究は医工連携。病院での診断や治療において、現在の技術では不可能なことを可能にするものづくりを目的にした研究を行っています。たとえばコロナのようなウイルス感染を分析する機器には、感度や時間、コストに課題があるものもあり、その解決が私の研究目標のひとつです。

中村 私は、東京大学では技術職員、熊本大学では客員助教として活動しています。東京大学では、ナノシステム集積センターが運営する「武田先端知スーパークリーンルーム」で、研究設備の広報や薬品・装置の点検を担当していました。熊本大学では、両大学や熊本の地元企業をつなぐ共同研究の推進のほか、半導体デバイス工学課程の支援やポータルサイトの立ち上げなどに取り組んでいます。

—両大学は以前から連携していましたが、分室という「場」を作った目的は何ですか。

笠間 熊本大学と東京大学は、2000年代初頭から半導体などの分野で研究・教育両面の協力を重ねてきました。その長年の協働をさらに発展させ、より持続的で実践的な連携を実現するため、熊本大学オープンイノベーションセンター内に設置したのが「東京大学分室」です。

本分室は、両大学の知と技術を融合し、研究・教育・産学官連携を一体的に推進する拠点として機能しています。目指しているのは、熊本県や地域企業、自治体とも日常的に交流し、現場の課題を迅速に研究テーマへと結びつ

け、成果を社会に還元する「共創の場」となること。また、東京大学ナノシステム集積センターをはじめとする先端研究拠点とも緊密に連携し、熊本から世界へと、連携研究と人材育成の新たな形を発信していくことを目的としています。

中村 東京大学ナノシステム集積センターには23名の研究者が所属。小川学長からは、「熊本大学で近い研究をしている方がいれば、ぜひ紹介してほしい」とのお話をいただいています。また、熊本大学にしかない衝撃実験棟などの特色ある施設を活用し、新しい化学反応を生み出せないかという議論もなされているんです。熊本大学内の東大分室が、そうした橋渡しの役割を担えればと考えています。

地域から始まるイノベーションや 半導体分野への女性進出も目標

—分室があるSOILの環境はいかがですか。

中村 東大分室のほか、東北大学や他大学の分室も加わる予定です。分室同士の交流からも新しい化学反応が生まれることを期待しています。

笠間 SOILは、研究・教育・産学連携を一体的に推進するために整備された最新施設で、非常に恵まれた環境です。共同研究者や企業関係者が集まりやすいオープンスペースも設けられ、学内外の研究者が自然に交流できる雰囲気があることも特長。また、クリーンルームや分析機器室などの先端設備も充実しており、研究相談から実験、試作までを一気通貫で迅速に進められるのが大きな利点です。半導体工学を中心に学際的な研究者が集うこの環境では、熊本大学と東京大学、さらに企業や自治体との日常的な連携が生まれ、共創のスピードが格段に高まると感じています。

—今後の展望をお聞かせください。

笠間 今後は、熊本大学と東京大学の教員がより緊密に連携し、熊本県や地元企業の皆様とともに大型プロジェクトの採択を目指したいと考えています。SOILという共創拠点を最大限に活用し、現場の課題を直接研究テーマへとつなげる仕組みを構築することが目標。たとえば、熊本市内の慢性的な渋滞問題、地域の水資源の持続的利用、半導体産業の人材不足など、地域固有の課題に対し、工学・データサイエンス・社会実装の観点から総合的に取り組んでいきます。熊本発の課題解決モデルを全国に発信し、大学の知と地域の力が融合する「地方から始まるイノベーション」を実現させたいですね。

中村 半導体分野は、教員・学生ともに女性が少ないことが課題です。私は、半導体技術にアートの要素を取り入れ、たとえば半導体ウエハをカットしたり、スピニング技術を応用したりしてアクセサリを作るワークショップを定期的に開催しているんです。女性の視点も積極的に取り入れ、次世代の女性たちに半導体の魅力を伝える活動にも力を入れていきたいと考えています。



2025年8月2日に開催されたオープンキャンパスでのワークショップ風景。女子中高生限定で、半導体チップの破片を自分で切り出し、ペンダントを作る体験をしてもらいました。



お守り型ストラップ



付箋

熊本大学大学院
先端科学研究部と
東京大学大学院
工学系研究科との
部局間連携協定
記念グッズ

半導体を変える、日本を変える、世界を変える 広い視野と高い志で挑もう!

【対談】若林秀樹卓越教授×百瀬健教授



若林 秀樹
Hideki WAKABAYASHI

半導体・デジタル研究教育機構
卓越教授

- 2017年～2025年3月
東京理科大学 教授
- 2025年4月～ 熊本大学
半導体・デジタル研究教育機構



百瀬 健
Takeshi MOMOSE

半導体・デジタル研究教育機構 教授
学長特別補佐

- 2008年～2023年3月 東京大学
生産技術研究所/大学院工学系研究科
- 2023年4月～ 熊本大学
半導体・デジタル研究教育機構

皆さんこんにちは！
僕の名前は健児くんです。いつもは熊本大学のウェアラブル「熊大タイムズ」でリポーターをしています。今回熊大通信に出張したのは、熊本大学で半導体教育や研究を担っていらっしゃるすごい先生お二人にお会いしたかったから。それが、若林秀樹卓越教授と百瀬健教授です。お二人から、お話をたくさん聞いてきました！



半導体を冠した新課程創設や 取り組みの速さが来熊の理由

▶**健児くん** まずは僕から、若林卓越教授を紹介します。若林卓越教授は技術経営が専門で、半導体デジタル産業論の権威。国の半導体デジタル産業戦略検討会議やデジタルインフラ会議の有識者メンバーであり、JEITA（一般社団法人電子情報技術産業協会）半導体部会政策提言タスクフォースの座長なども兼任。熊本大学では、大学院自然科学教育部および新設された半導体デバイス工学課程で、2025年から、半導体産業論や技術経営（Management of Technology: MOT）に関する講義をしてくださっています。

▶**若林** 私は、東京大学の工学部出身なんです。エンジニアにはならず、大学院を修了後、野村総合研究所やアメリカの証券会社などでアナリストを約10年、その後自分でヘッジファンドを起業してファンド運用を約10年、2017年からは東京理科大学の教授を務めMOTを社会人学生向けに教えました。アナリスト時代から、半導体をめぐるヒト・モノ・カネとその構造を対象にしています。

▶**健児くん** 2025年、東京理科大学をご退職と同時に、熊本大学の卓越教授となられました。そのきっかけは？

▶**若林** ご縁ですね。2024年8月に東京で開催された「第88回半導体・集積回路技術シンポジウム」で基調講演をしたときに、富澤一仁理事の発表を聞いたことがきっかけ。熊本大学が、すごいスピードで半導体の取り組みを進めていることに感動したんです。半導体はスピードが大事。小川学長が秒を争う世界である循環器医療の医師であることも、学長の取り組みの速さに影響していると思いますよ。あとは、昔から熊本城が大好きだったから来ました(笑)。

▶**百瀬** 実は、若林卓越教授が富澤理事の発表

を聞かれたシンポジウムに、半導体教育セッションを企画したのは私なんです。半導体人材がこれだけ不足している中、大学で新たに組織を作り教育をする必要があり、その取り組みも半導体の先端技術シンポジウムで発信するべきだと考えました。半導体の新課程創設など、半導体教育にも非常に力を入れている熊本大学からまずは発表してもらおうと、富澤理事に登壇をお願いしたんです。

▶**健児くん** じゃあ、そのシンポジウムでお二人は出会ったんですか？

▶**若林** 百瀬教授は非常に優秀な研究者として、お名前は存じていました。でもそのシンポジウムで、百瀬教授が私の東京大学時代のクラスメートで半導体プロセスの権威である霜垣幸浩東京大学教授のお弟子さんにあたると聞いて、急に親近感を持ったことを覚えています(笑)。

▶**百瀬** もちろん私も、若林卓越教授のお名前は存じていました。学会の時ににお会いできてうれしかったです。

▶**健児くん** 熊本大学が初対面のきっかけになったようで、僕もうれしいです。百瀬教授はなぜ熊本大学に来られたのでしょうか。

▶**百瀬** 私は18歳で大学進学し、バドミントン、助教、講師となった24年間、ずっと東京大学にいたんです。ただ、TSMCの熊本進出が決まり、熊本大学がどう対応するだろうと思っていたら、先ほど若林卓越教授もおっしゃったように、小川学長の強力なリーダーシップのもと、日本で初めて半導体を冠した学科、半導体デバイス工学課程を創設すると。これはおもしろいぞ、と思って熊本大学に来ました。

▶**健児くん** 半導体を冠した学科って、日本の大学にはなかったんですか。

▶**百瀬** 今まで、たとえば材料の学科では、自動車分野、半導体分野、あるいはバイオ分野など、とにかく広くいろんな分野に学生を送るための下支えとなるような教育が行われてい

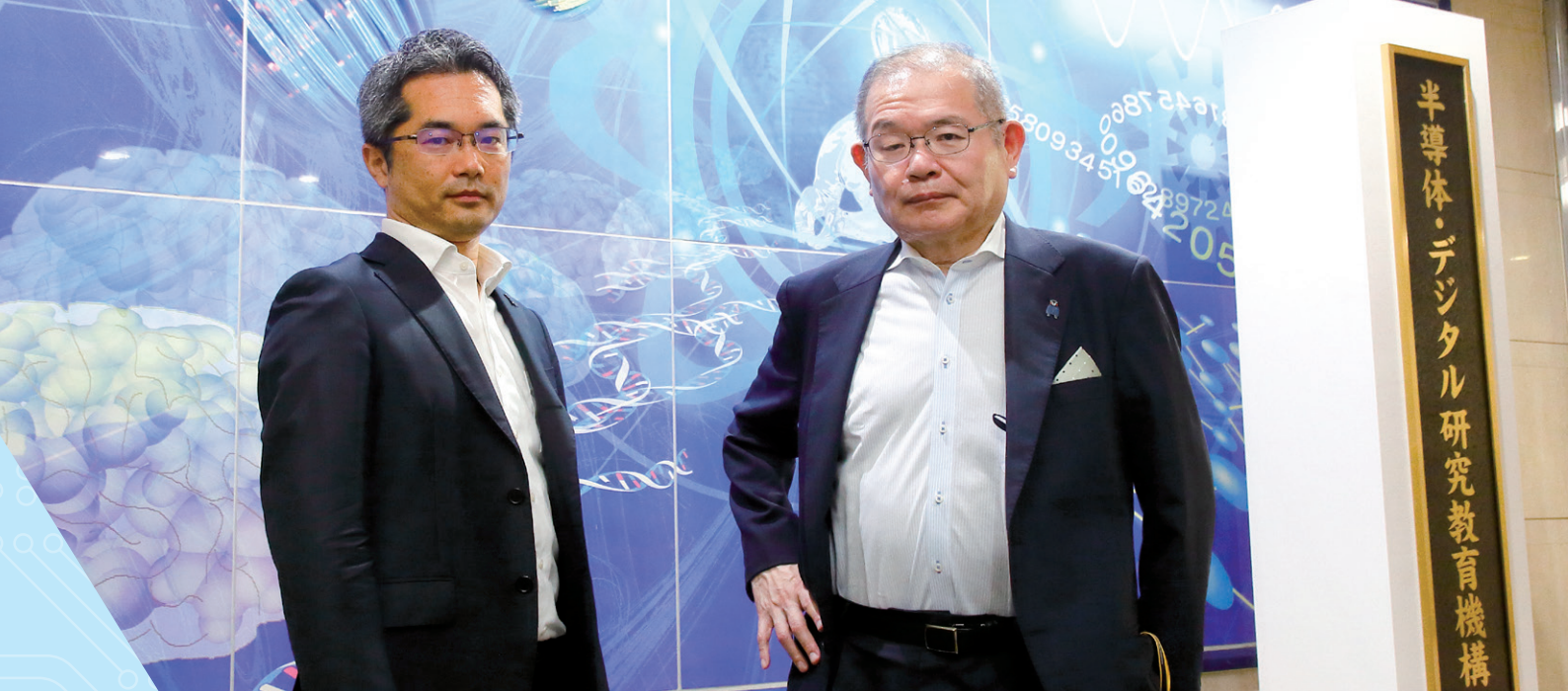
ました。でも、学科名に半導体を冠するということは、学んだ学生を全部半導体産業に送る教育をするということ。つまり、発散型ではなく収束型の教育であり、そんな教育をする学科は日本の大学にはほとんどないですよ。

▶**若林** 学問には、アナリシス型とシンセシス型という2種類があります。たとえば、一般的な電気学科の場合はアナリシス型。電気を極めた人材を、様々な産業分野に広く送り込むための学問です。一方、電気もあればケミカルもありプロセスもあるのが半導体。すべてが絡むシンセシス型の学問で、半導体産業のみに人材を送り込むことを目的としているのが半導体デバイス工学課程です。半導体を冠にした学科の創設は、熊本大学の慧眼だと私も思っています。

エンジニアにこそ必要な 経営的視点

▶**健児くん** 百瀬教授は2023年に東京大学から熊本大学に来られました。半導体の最先端研究をする百瀬研究室には、百瀬教授を慕って他大学から進学してくる人や社会人学生、企業に所属し共同研究をする人など、年齢も国籍も立場も実に様々なメンバーが在籍しています。どんな研究をされているんですか。

▶**百瀬** 一つは、半導体用の薄膜を作る研究です。たとえばシャボン玉の膜は引っ張られることで薄くなるわけですが、半導体の薄膜の場合、そんなやり方では任意の場所に必要な量だけ膜をつけることができません。そこで、いったん原子レベルまで材料をバラバラにし、それを雪のように降り積もらせる技術を使って薄膜を作ります。ただ実は、ナノスケールの半導体にこの薄膜を作り不要部分を取り除くと、この薄膜自体が電子回路になるんです。つまり、この薄膜は半導体表面をコーティングする技術ではなく、材料やデバ



イスを作ると真ん中の技術だと言えます。

▶**健児くん** まさに最先端技術なんですね！

▶**百瀬** そのほかに、半導体の三次元積層実装研究も進めています。これまで半導体は、とにかく小さくする研究が進められていました。しかし小さくすることには限界が近いんです。そこで、チップを縦に積み重ねていく、これが三次元積層です。わかりやすく家に例えると、これまでは長屋のようにつながっていたチップをマンションのように積み重ね、エレベータで行き来するように上下でコミュニケーションさせます。

▶**若林** 百瀬教授は本当にすごい研究者なんです。でもそれだけでなく、日本では理系の研究者や技術者に不足している採算やコスト分析という経営的視点、つまりMOTにも深い理解をお持ちなんです。

▶**健児くん** MOTと言えば若林卓越教授ですが、熊本大学でどのような講義をしておられるのでしょうか。

▶**若林** 隔週で週3回、熊本大学と、熊本大学の東京オフィスで講義しています。ファーストタームは、学部1年生向けに半導体企業入門。もう一つは企業分析です。企業入門では、会社四季報を学生に配布。企業について、売り上げ、利益、経営者、株主などを知り、その企業の特徴や、同じ産業の別の企業との違いなどを見ていき、さらに半導体企業にはどんな企業があるかを理解します。私が座長をしているJEITAに参画している半導体企業の人に、オンラインで話をしてもらうこともあります。今年は、授業を受けた熊大生のうち7人に東京に来てもらい、半導体メーカーのエンジニアとクロストークをしてもらいました。

▶**健児くん** 若林卓越教授が講義をしてくださることで、半導体の専門知識だけでなく経営学も学べるんですね。熊本大学にはそんな素晴らしい学問環境があることを、もっともっと多くの人に知ってほしいです。工学専

攻でも企業や経営理解が必要な理由を、もう少しお話しいただけますか。

▶**若林** 日本は技術では勝っているけど、経営では負けている、と言われる。これはまさに、工学部出身の技術者が経営を知らないから。たとえばアメリカでは、工学専攻でも、多くの学生が途中でMBAを取得します。

日本のモデルは、いい技術で製品を安く作れば市場に広がるというもの。でも今は、最初からその技術の特性に適したビジネスモデルを考えないと絶対にうまくいきません。それを日本はこれまでまったくやっておらず、それが日本の半導体シェアが落ちた理由の一つです。そしてもう一つ。メーカーに就職するのは理系が7割。でも、役員になるのは文系が7割。企業経営において、技術者と経営者が密接に関係していないことも良くありません。それに、たとえエンジニアとして就職しても年齢を重ねたら役員や社長になる可能性だってあるのに、経営や組織マネジメントがわからない、となってしまうんですね。

▶**百瀬** 先日参加した半導体学会でも企業の方が、事業部長になってお金の計算が必要になり急に勉強し始めた、若いころからやっておけば違ったのに、とおっしゃっていました。これは個人的な反省だとしても、各企業でそれが起こればそれはもう日本という国の反省であり、変えていく必要があるわけです。企業や経営の知識を持つ技術者を育成するMOT教育をしてくださる若林卓越教授がおられることは、熊本大学にとって素晴らしいことです。

**熊本大学が日本を引っ張る
そんな気概を持ってほしい**

▶**健児くん** 最後に、メッセージをお願いします。

▶**百瀬** 日本の大学はこれまで、開発より研究に重きを置いてきました。アメリカでは、大

学によっても違いますが、開発に非常に積極的な先生もいます。日本になかった大学と企業との半導体共同開発において誰が第一号になれるかを考えると、物理的な距離はとても重要です。距離が遠く離れている大学と企業の共同開発に莫大な費用をつぎ込むことは、なかなか難しいと思います。その点で熊本は、大学と企業が物理的に近いところに揃っています。ということは、両者が連携した研究開発における日本の成功事例の先駆けになれる可能性があるし、半導体開発モデルを熊本モデルとして構築できる。そうすれば、熊本と熊本大学が先導して日本の半導体の流れを変えていけるのではないのでしょうか。

▶**若林** 私は外から熊本や熊本大学を見てるのでよくわかるんですが、先ほども言ったように、日本でもトップレベルの小川学長や、百瀬教授のような素晴らしい研究者が熊本大学にいる。これはすごいチャンスなんですよ。熊大生や熊本県民には、もっと高い目線で志高く、熊本や熊本大学が日本全体を引っ張っていくという気概を持ってほしいと思います。熊大生は、私が知っている有名大学の学生と比べても優秀です。熊本一や九州一で満足せず、日本一、世界一を目指してほしいというのが私の強いメッセージです。

▶**健児くん** 熊大生も熊本県民も、広い視野を持ってこのチャンスをつかまなければいけませんね。ありがとうございました！



健児くんからお知らせ

僕がリポーターをしている「熊大タイムズ」で、ここに載せられなかったお二人のご経歴や対談をもっと紹介しています。ぜひ読んでみてください！



熊本大学のアントレプレナーシップ教育

失敗を恐れず、 新しい価値創造に挑戦するマインド アントレプレナーシップ

これからの時代を生き抜くために必要とされるアントレプレナーシップ。
熊本大学は今、アントレプレナーシップ教育に力を入れています。

アントレプレナーシップとは何か。
なぜ今、アントレプレナーシップが必要なのか。

熊本大学のアントレプレナーシップ教育を担当する
研究開発戦略本部ベンチャー推進部門の入江英也特任教授と
猪俣雄也特任准教授が質問に答えてくれました！



入江 英也 特任教授

大学3年生次に学生起業し、現在、株式会社ユウシステム代表取締役として、福岡/上海/バンコク/マニラに事業展開し30年以上経営を行ってきました。現在は、熊本大学のアントレプレナーシップ教育の実務責任者を務めています。佐世保工業高等学校電子制御工学科准教授、神山まるごと高専デザイン・エンジニアリング学科准教授(徳島県)、熊本高専リベラルアーツ科准教授、佐世保高専特命准教授、函館高専客員教授を兼務。



猪俣 雄也 特任准教授

熊本銀行から出向し、アントレプレナーシップ教育や研究者のベンチャー創出を金融の面から伴走支援しています。アントレプレナーシップ教育では、ビジネスアイデア創出や、事業計画の作り方などの講義を担当しています。熊本銀行では、16年で約100社の新規起業を支援してきました。その経験を活かし、熊本大学の研究者の起業支援についても積極的に行っています。

2025年度 熊本大学アントレプレナーシップ教育全体像

■全学部生対象

アントレ入門	アントレ概論	アントレ実践
全8回	全8回	全8回
起業家思考／自己理解	起業家精神/ ビジネスプラン構築/発表	チーム組成/ビジネス創出/ 発表/審査

■博士課程

イノベーションリーダー育成
実践MOT／DX経営/外部起業家の講義



夢プロジェクトや
学生ビジネスコンテストに参加



Q

そもそも、アントレプレナーシップとは何ですか？



日本語に直訳すれば「起業家精神」ですが、起業するためだけに必要なマインドというわけではありません。失敗を恐れずに踏み出し、社会課題を解決する新しい価値を自分で創造することに挑戦できるマインドのことであり、会社員や公務員になったとしても、これからの社会を担う人材には必ず求められる姿勢です。

現代社会は「VUCA」の時代といわれています。「VUCA」はVolatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の頭文字。私たち人類がこれまでに経験したことのない出来事が次々と起こる予測不能な今の世の中を指す言葉として使われています。そんなVUCAの時代を生きるためにもアントレプレナーシップが大事なんです。

Q

現代の社会では、どのような人材が求められていますか？



大学で専門を学んだからといって、その世界で言われたことだけをやっていてはだめ。企業においても、変化の激しい時代に既存の製品やサービスの枠を超えた新しい価値の創造は必須です。それが社会課題の解決につながるよう、自分の専門性と結び付けて自ら考え、ビジネスとして事業化できる人材が求められています。

Q

日本でも、スティーブ・ジョブズは生まれるでしょうか。



私も30年前、大学3年生で起業した一人です。当時は周囲から、なんでそんなリスクをとるんだと言われました。でも所属する研究室の指導教員である私の師に、「アメリカでは若者がガレージから起業しているんだ。君にだってできる」と言われて、それを真に受けました(笑)。

大学の中で事業を考え実践できることは、言い換えれば、失敗しても大丈夫ということです。守られている学生の間に、起業じゃなくてもいいから、考えて挑戦してみる。その経験の積み重ねが、将来きっと役に立つはずです。



その通りだと思います。アントレプレナーシップに必要なのは、一步を踏み出せるかどうか。そうなるためにはやっぱり、いろいろな経験を積める場に立ってみることです。熊大生の中で主体的に動ける学生をさらに育てていきたいですね。

Q

だから、大学もアントレプレナーシップ教育に力を入れているのでしょうか。



世界トップに名を連ねるGoogleやAmazonは比較的最近できた企業。1990年代には世界トップ50のうち30社くらいが日本企業でしたが、現在はトップ35にやっとトヨタ自動車1社が入るという状況です。つまりこの30年、日本では世界をリードする革新的な大企業が生まれていないということ。だから文部科学省も経済産業省も、大学におけるアントレプレナーシップ教育および大学発ベンチャーに力を入れています。研究教育機関である大学では、単なる思いつきのアイデアではなく、特許などの知財をベースとした、他者が簡単には真似できない事業を生み出せる可能性を持っているからです。

Q

授業以外には、どんな学びができますか？



本学には「学生ベンチャー 夢プロジェクト」という、熊大生の事業アイデアのブラッシュアップや、試作品開発に向けた活動資金の援助を行うプロジェクトがあります。それから、起業をキーワードとして活動する社会自由研究サークル「SIRKU」もあります。起業に特化しているわけではないのですが、アントレプレナーシップの醸成を意識した活動をしています。

「学生ベンチャー 夢プロジェクト」「SIRKU」は次のページで詳しく紹介しています！

Q

熊本大学のアントレプレナーシップ教育とは？



まずは、イノベーションとはなにか、先が読めない現代社会ではどんなマインドが必要かといった、インプットから始めます。次に、事業計画の作り方や資金調達方法などを学びます。その後、社会課題をわかったうえで自分の専門と事業を結び付けていきます。大きく分けて、アントレプレナーシップ入門、概論、実践の3つです。

教養科目として全学部の学生が履修でき、博士課程にも講義が用意されています。自分たちでアイデアを発想し、プレゼン資料を自分で作り発表するなど、アウトプットにも重点を置いた一貫通貫型の実践的授業です。上場企業や、地場企業で活躍されている方や、他大学の教員に来ていただき、直接学生への指導をお願いしています。

Q

熊大生をはじめ、これから社会を担う人たちにメッセージを！



熊大生には「公務員になりたい」という学生が多いと感じています。でも、公務員になって何をしたいのかと聞くと、答えに詰まってしまう。もったいないと思います。公務員なら自分のまちを変える、企業なら社長に直談判する。ただ言われたことをこなすのではなく、「こうやったらおもしろいんじゃないか」と発想し挑戦できる人材になってほしいです。



個で闘う外国人に比べ、組織の看板を背負って頑張るのが日本人。そのために、看板がなくなった途端に途方に暮れてしまう人が多いと思います。私は自己紹介にもあるようにエフォート(従事比率)を分けていて、様々な肩書を持っています。終身雇用が徐々になくなり人口も減る今、これからは能力のシェアリングの時代です。肩書の力ではなく、「自分で生きていく力」が必要だということを、これからも伝えていきたいと思っています。

学生ベンチャー 夢プロジェクト

学生の挑戦をバックアップ！ 熊大生の起業と起業体験の場「夢プロジェクト」

熊本大学の「学生ベンチャー 夢プロジェクト」は、熊大生の起業や起業体験を支援する場です。

参加募集は毎年1回。参加学生は、ビジネスセミナーの受講や

社会人メンターとの面談などを受けることができ、

全国で開催されるビジネスコンテスト出場もサポートしてもらえます。

■アンビシャスコース

個人申請。起業に興味はあっても何をしたいかわからない。そんな学生が対象で、気軽に参加しつつ、ビジネスを基礎から学ぶことが可能です。同時に、参加学生の中でチームを組み、ビジネスプランを作成していく実践も準備されています。

■プレジデントコース

チーム申請。すでに明確な事業プランがあるチームを募集するコースです。採択されると、1年を通しビジネス化に必要な技術の検討や試行を支援してもらえるほか、資金の支援や学外でのビジネスコンテスト参加支援もしてもらえます。



2025年度の「夢プロジェクト」募集ポスター
(2025年度の募集は終了しています)

2024年度「夢プロジェクト」
説明会でのワークショップの様子



猪俣特任准教授から一言！

「夢プロジェクト」では、理工系の社会人学生が稲作に被害を与えるジャンボタニシの誘引剤を食品を材料に作り、すでに商品化されています。人文社会系では、心理療法に使う箱庭をVRで作ろうとしている学生もいます。この二人は九州でも注目されていますよ。

「夢プロジェクト」に
参加した学生さんに
聞いてみました！

大学院自然科学教育部
博士前期課程1年

Teppei MORIMOTO
森本 鉄平さん



自分の世界を広げてくれた「夢プロジェクト」

暗記アプリから着想を得て 新しいプロダクト開発に挑戦

——参加した経緯を教えてください。

夢プロジェクトに初めて参加したのは学部2年生の時。アンビシャスコースに参加したのですが、思うような成果が出せなかったのが、4年生でアンビシャスコースにもう一度参加。この時は自分のプロダクトアイデアもあったので、それをやりたいと猪俣特任准教授に相談しつつ活動しました。大学院に進学した今年度はプレジデントコースに採択され、活動資金もいただいています。

——どんな事業アイデアなんですか？

アプリの制作です。もともとある暗記アプリ「Anki」から着想を得ました。例えば英単語の場合、紙の単語帳もそうですが、そもそも自分で文字を記入して作ることに時間がかかります。そこで、あらかじめ文字が記入されたものを作って販売してはどうかというアイデアを思いつき、プロダクト制作を進めています。

人に伝える時は「自分の言葉で」 大切なことも教わった

——どんな学びがありましたか？

2024年に崇城大学主催の第10回ビジネスプランコンテストに出場し、アイデア賞を受賞しました。その準備の中で印象に残っているのが、プレゼンについて猪俣特任准教授から教わったことです。スライド資料は、遠くから

見てもわかりやすい青がいいとか、資料の構成やデザインについてもアドバイスをいただきました。それから、自分の言葉で話す、という大切なことも教わりました。プレゼンではあらかじめ用意した原稿を読む人が多いんです。そうではなくて、自分の言葉で伝えること、それが一番審査員に思いが伝わると学びました。

——今後の展望は。

今年、「熊本版末踏的プロジェクトIPPO」※にも採択されました。ここでは資金援助と事業化の伴走支援ももらえるので、大きな進歩になると思っています。

夢プロジェクト参加のきっかけはアイデアがあったからですが、活動するうちに、起業した方も含め、大学外の社会人の方々に関わることを通してコミュニティが広がり、自分の世界が広がっていった、それがすごくよかったと思っています。世界が広がり、いろんな生き方があることを知り、今は将来の選択肢が増えて困っているくらいです(笑)。



ビジネスコンテスト
でプレゼンする
森本さん



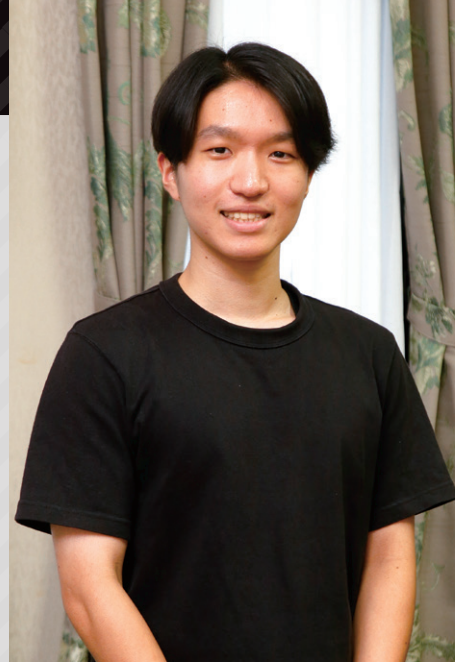
崇城大学ビジネス
プランコンテスト
授賞式

※「熊本版末踏的プロジェクトIPPO」…ITを駆使しイノベーションを起こす人材を発掘する、独立行政法人情報処理推進機構主催の事業「末踏事業」の熊本版。

ゆるやかに、自由につながり 一歩を踏み出す力を醸成「SIRKU」

SIRKUはアントレプレナーシップ醸成を目的にしたサークルですが、起業だけに重点を置いているわけではありません。自分がやりたいこと、興味があることを突き詰めてみたい、そんな気持ちを持つ学生たちが「ゆるやかに」つながる情報共有コミュニティです。

部長を務める、理学部3年生の入江悠真さんに話を聞きました。



SIRKU部長
理学部理学科3年

Yuma IRIE
入江 悠真さん

SIRKU ってこんなサークル!

★SIRKUの始まりは…

3人の学生が集まって創設。サークルとなる前から、「夢プロジェクト」参加者などがつながった、名前のない学生コミュニティがすでにあり、入江英也特任教授の熊本大学着任をきっかけに名前がついて、2023年4月にキックオフ。Social Independent Research in Kumamoto Universityの頭文字からSIRKUと名づけられました。

★活動目的は…

アントレプレナーシップの醸成ですが、とにかく、学生のうちにいろんな経験を積むこと。大学内外の人とのつながりを通して視座を高め学生として成長することが目的です。

★メンバーは…

現在は、OBも含めるとLINEで約70人がつながっています。プロジェクト等で実際に活動しているのは十数人。SIRKUはあくまでも、活動する「場」を提供しているだけなので、実際に具体的な活動をするかどうかはメンバー本人に任せています。

★活動内容は…

本当に様々。熊本大学を中心にした国際交流や他大学との交流、様々なプログラムの企画運営をしています。最近では地域でのプログラムに注力。SIRKUメンバーで地域課題を解決するプログラムや、中高生を対象にした起業体験プログラムなどの企画運営も行いました。



SIRKUが熊本市および熊本大学と共同で行なった「2025アントレプレナーシップサマープログラムひごチャレ」。SIRKUメンバーが講師を務め、高校生が熊本の観光課題を解決するような商品の企画や開発を体験しました。



SIRKU顧問の入江特任教授から一言!

SIRKUメンバーの一人がAIの受託ビジネスで起業していて、熊大発ベンチャーとして認定されています。SIRKUメンバーは、熊本大学の起業家育成プログラム等にも多く参加していますよ!

入江悠真さんからMessage

自ら動く。それがアントレプレナーシップ

私は1年生の9月からSIRKUに参加しています。1年次に参加した、熊本大学が他大学と共同で実施している北海道でのアントレプレナーシップキャンプで、当時SIRKUメンバーだった先輩に誘われたことがきっかけです。

現在は部長を務めており、社会活動にも力を入れています。地域と一緒に活動すると、地域の方々との交流を通して困っていることや課題が見つかる。それが、社会に価値を生み出すためのスタートだと思っているからです。熊大生として熊本でしかできないことをやろうと意識しています。

大学は様々なことに挑戦できる場です。海外での活動、プロジェクトへの参加などを通じて得られる経験は、何ものにも代えがたい貴重なものだと思います。また、多様な人との出会いを通して、価値観を広げ、視座を高めることができます。ぜひ積極的に行動して、自らの可能性を広げてみませんか?



左:米国連邦議会訪日団の一行と/右:小型ロボットを使ったキッズプログラミング教室

SIRKUに興味がある人はぜひ
Instagramをチェックしてみて!



学生起業

熊本大学在学中に起業！ 現代美術と情報技術が融合した事業 「CariC」



入江特任教授から一言！

松野さんは、SIRKU創設メンバーの一人。夢プロジェクトにも参加して、熊本大学在学中の2022年に個人事業としてCariCを立ち上げました。東京都立大学大学院に進学した今も事業を継続しています。

現代美術作品のストーリーを デジタルアーカイブ化

CariCは、美術がメインの活動領域。特に現代美術の作家を対象に、人物や作品、活動の紹介を情報技術で支援する事業です。

美術を評価する場合、作品そのものはもちろん、作品の背景にどんな歴史があり、誰がどんな風にその作品を作ったのかなどの文脈も大事だと思うんです。それを伝え評論するために、アートにおけるストーリーをデジタルデータとしてアーカイブし、アートを研究する人々が参照できるような状態にすることが目標の一つ。たとえば、美術館の学芸員さんは、学術研究として作品がどんな時代にどう作られたのかなどを調査します。学術論文であればデジタルライブラリーなどで調べることができますが、美術作品や作家の場合はそういったものがなく、本当に手探りの状況。それら情報をうまくデジタルの領域に乗せて参照できるようにするのがCariCの事業です。

基礎力がついた「夢プロジェクト」 柔軟な考え方をくれたSIRKU

熊本大学1年生の時は、自分で何かプロダクトを作りたいというただの興味しかありませんでしたが、「夢プロジェクト」で採択され今の事業の前身といえるような活動を3年生まで行いました。一方で、熊本大学社会自由研究サークル SIRKU の立ち上げにも参加。活動内容も自由で、スタートアップにこだわらなくても、いろんな成長の仕方があるという柔軟な考え方を養えたと思っています。

熊本大学卒業後は東京都立大学大学院のインダストリアルアート学域に進学しました。熊本大学で専門的に学んだ情報工学に加え、

CariCの技術を社会実装するにはもっと美術領域のことを知らないといけないし、少しでも業界の中に足を踏み入れるべきと考えたことが理由。現在は、アートを領域としている先生のもとで学んでいます。

守られている学生のうちに 一步を踏み出し価値観を広げよう

美術領域を事業の場としたのは、もともと現代美術が好きだったから。これからも芸術や文化領域で事業を進めたいと思っています。「夢プロジェクト」参加もSIRKU立ち上げも、「行ってみるか」「やってみるか」という感じでスタートしました。自分の経験から言わせてもらえば、社会には危険な場所もありますが、大学に守られている大学生のうちなら安心して一步を踏み出せます。大学生のうちに様々な人たちに会い、ぜひ価値観を広げていってほしいと思います。



熊本大学4年次の2023年、「熊本版未踏のプロジェクトIPPO」にも採択。その際のプレゼン風景



個人事業CariC
デザインエンジニア

松野 仁志さん

2019年4月	熊本大学工学部 情報電気工学科 入学
同年	夢プロジェクト採択
2022年4月～	2023年3月 休学
2023年4月	SIRKU立ち上げ
同年	熊本版未踏のプロジェクト IPPO採択
2024年3月	熊本大学卒業
2024年4月	東京都立大学大学院 システムデザイン研究科 インダストリアルアート学域に進学 現在修士2年

展覧会での技術協力

松野さんはCariCの事業として、2025年4月から6月まで熊本県宇城市の不知火美術館で開催された「働正（はたらきただし）」展で技術協力を行いました。不知火町出身の前衛美術家・働正氏と、様々な人物やモノ・コトとの関係性を可視化したダイアグラムを壁に投影。ダイアグラムは来館者が自由に操作して関係性を探ることができるようになっています。



働正展(上)／松野さんの作業風景(中)／制作したダイアグラム(下)

アントレプレナーシップ教育 iHOPE

熊本大学薬学部は、学部として独自にアントレプレナーシップ教育に力を入れています。

Innovative Healthcare-Oriented Program for Entrepreneur、通称「iHOPE」は、2017年に始まった、薬学部のアントレプレナーシップ教育プログラムです。

■これまで

2017年 プレ講義からiHOPEスタート

2021年 大学院生向けiHOPE NEXTスタート

■概要

講義	iHOPE	iHOPE NEXT
対象	学部1年生	大学院生
コマ数	計5コマ程度	計4コマ程度
内容	座学、ゲスト講演、ワークショップ、最後にプレゼンテーション	座学、ゲスト講演、テックブレンダーや研究費に申請
目的	自分の興味を見出す、具体的な一歩を踏み出す	自らの研究の魅力を引き出す



iHOPEで学び、実際のスタートアップ企業でインターンシップを経験した学生たちは、その取り組みや提案を薬学学会で発表しています。井上教授は、「大学1年生が、学会で堂々とプレゼンするんです。こんな学生が熊本大学にはたくさんいるんですかと学会参加者から驚かれ、みなさん、こういった取り組みを自分の大学でもやるべきだとおっしゃいます」

もうひとりの講師、弘津辰徳先生からMessage



弘津 辰徳 非常勤講師

博士(健康生命科学)
株式会社サイディン 代表取締役社長
熊本大学薬学部/薬学教育部
非常勤講師

私は、熊本大学大学院薬学教育部の博士後期課程だった2016年に株式会社サイディンを立ち上げました。起業の時に世話になったのが株式会社リバネス。iHOPEには最初はゲスト講師として登壇し、2021年から非常勤講師として教えています。

自分が学生起業をした時は全然不安はなくて、とにかく楽しかったです。当時iHOPEはなかったんですが、HIGOプログラムという熊本大学のプログラムで海外にも行きましたし、リバネスをはじめとして様々な方と出会ったことも、すごい刺激であり、かつ心強かったことを覚えています。iHOPEではそういった自らの経験を話すこともありますが、ゲストで来てくださるスタートアップや企業内で新規事業を手掛けている方などと学生たちをつなげることが自分の役割で、インターンシップや企業見学の設定をしています。

薬学部出身者が本気を出せば 世界は変わる！



井上 浄教授

Joe INOUE

博士(薬学) 薬剤師
株式会社リバネス 代表取締役社長CCO
熊本大学薬学部 先端薬学教授
慶應義塾大学薬学部 客員教授
武蔵野大学アントレプレナーシップ学部 客員教授

多岐にわたる学問を修める薬学には大きな可能性

——企業の代表をされていますが、なぜiHOPEの講師になられたんですか。

私が代表を務める株式会社リバネスは、大学院生が集まって立ち上げたベンチャーで、私はファウンダーの一人です。大学院生に研究費を支給したり、大学の研究成果の社会実装支援や起業の伴走支援などを事業としています。

私が初めて熊本大学薬学部でプレ講義を行ったのが2017年。私が感じている薬学におけるアントレプレナーシップの可能性を学生たちに話したいと、当時の薬学部長だった甲斐広文教授にお願いしたことがきっかけです。思いのほかいい反応が学生からあって、プロジェクトが立ち上がりました。以来ずっとiHOPEで教えています。

——井上教授が考える、薬学におけるアントレプレナーシップの可能性とは。

私自身が薬学博士で、薬剤師の免許も持っています。薬学は、化学系、生物系、医療系などに加え、薬学特有の薬理学や薬剤学、薬事や法律など多岐にわたる分野を学ぶ学問。つまり、ヘルスケアをはじめ、日常生活に関わるテクノロジー領域の専門家になれるのが薬学部出身者です。ということは、薬学部出身者は、人および人を取り巻く環境にある社会課題の解決を掲げるスタートアップの社長候補になれる。薬学部出身者が本気を出したら世界が変わる、というのが私の仮説です。

でも、薬学をしっかり修めても、言われたことだけをやっていてはだめ。創薬だろうと薬剤師の道だろうと、医薬や薬剤師業界の課題を率先して解決できるような人材となるためにも必要なマインドがアントレプレナーシップです。自分で創造し、そこに価値があると思うんだったら失敗を恐れずにやっちゃおう、そんな人材を育てることを目的にした教育プログラムがiHOPEです。

リアルなアントレプレナーたちと触れ合う機会を多く設定

——学生たちはどんなことを学び実践するのでしょうか。

高い志と倫理観に基づき失敗を恐れずに踏み出し、新たな価値を創造していくマインドがアントレプレナーシップ。まずは座学で、おもしろいと思うことがあるならそこから始めようと、マインドセットを叩き込みます。

そのうえで、学生たちにたくさん会わせるのが、実際のアントレプレナーたち。世界的な統計にも、アントレプレナーに会った人の中からアントレプレナーは生まれる、というデータがあるんです。大学生にはアントレプレナーに出会う機会はほぼありませんから、起業した人や企業内で新規事業を手掛けているような方を、ゲスト講師としてたくさん招いています。

——最後に、メッセージをお願いします。

自分が課題感や好奇心を持って、自分が旗を振って、自分の責任で道を切り拓く人になってほしい。どんな道に進んでも課題はあります。たとえば薬剤師なら、新しい活動で新しい仕事を増やしたり、もしくは減らしたり、こういう姿勢でやったほうがいいのではといった提案が積極的になれる人を増やしたいと思っています。

人に言われたことだけをやっておけばいい、それも選択肢ですが、やればやった分の人生は必ず待っているよと、いつも伝えています。

こんにちは！ 再び、健児くんです。
ここに載せきれなかった井上教授と弘津先生のお話を、「熊大タイムズ」で紹介しています。ぜひ読んでみてくださーいね！



メンバー構成

准教授1名、大学院生8名、学部生7名

論文テーマ

卒業研究

- 中学校保健体育科におけるPBLを用いた生徒の自主性を促す学習方法の検討
- 小学校体育科におけるメタバース導入の可能性—表現運動領域の恥ずかしさ軽減に着目して—
- 体育の授業におけるICT活用が運動有能感に及ぼす影響
- バスケットボールにおけるホッケーアシストの種類とその有効性の検討

「運動は楽しい！」 生涯そう思い続けられるよう 子どもたちを体育好きに



■ 末永研究室の研究その1「より良い体育授業を作る」

研究の狙いは、子どもたちに、体育の授業を通して運動好きになってもらうこと。たとえば記録を取る場合も、記録だけではなく、一人ひとりが自分の力をどれだけ伸ばせたかに着目。そうすると、運動が不得手な子のほうが伸びしろがあり、楽しさを感じられるようになります。とはいえ、勝つ喜び、負けるくやしさ、上達する工夫や人を応援する意味を学べるのも体育授業の独自性。末永研究室では、体育が好き

になり、かつ、技能向上や工夫・協調を学べる効率的な体育授業の組み立てを考えています。



■ 末永研究室の研究その2「熊本ヴォルターズとの共同研究」

熊本大学大江総合運動場にある渡鹿体育館は、熊本ヴォルターズが練習施設として活用しています。ここでの様々な活動が末永准教授の研究対象。戦術や対戦相手のデータ分析も行いチームヘフィードバックしています。データの取得は学生たちも協力。学生がプロスポーツチームの強化に関わる取り組みをする大学は珍しいそう。そのほか、末永准教授が前任大学で、吉本興業の芸人さんに依頼して作った「投

能力向上ダンス」をアレンジした「ヴォルターズリズム体操」を取り入れた実証体育授業を、熊本市内の2小学校で実施しています。



連携協定

2024年度に、熊本大学、医療機関を運営する桜十字グループ、熊本ヴォルターズの運営会社である熊本バスケットボール㈱、これら3者で包括連携協定。2025年度には、熊本大学教育学部、熊本市教育委員会、熊本ヴォルターズとの、部局間による新たな連携協定も締結し、末永研究室はこの協定のもとで活動しています。

地域とのかかわりを通して多くを学んでほしい

この研究室には体育教師を目指す学生たちが所属。彼らには、体育好きな子どもを一人でも多く育ててほしいと思っています。子どもの頃の運動習慣は大人になっても持ち越すことが多くの研究からわかっていますから、健康な人生を送る上で子ども時代から運動好きであることは大切なことです。

熊本ヴォルターズとの共同研究においても、学生たちは良い経験を重ねています。教職に就く人は基本的に、卒業後も「学校」という同じ世界に居続けることになりますから、練習のお手伝いなどで社会の様々な方たちと交流できることは貴重です。時に真剣に怒られることもあります。それも、学生を大人として扱ってくれている証。社会での振る舞いという授業では得られない学びを、学生たちは地域やチームの皆さんから得ています。



末永祐介准教授

- 熊本大学大学院教育学研究科 教育学部
保健体育科教育講座(体育科教育学)
- 熊本ヴォルターズ
アナリティクスチームディレクター

恐怖を感じない 段ボールハードル 体育教材の工夫を検証

教育学部4年
部原 ひなさん
Hina HEBARA



中学校の体育教師になりたくて、体育教育を中心に学べるこの研究室を選びました。卒論では、小学生に対し、段ボールでできたハードルを使う検証を行う予定です。板でできたハードルだと苦手な子はどうしても恐怖心を持ってしまうため、小学校のうちに段ボールでできたハードルで、その楽しさを知ってもらいたいと考えています。末永准教授がよく例えるのが、ピーマン。そのままでは食べられないけど、料理で工夫すれば食べられます。運動嫌いな子も、工夫次第で好きになってくれると思います。

私は陸上競技が専門なのですが、実は水泳などは苦手でした。だからこそ、苦手な子の気持ちもよくわかります。体育が苦手な子を絶対に置き去りにしない、そんな体育教師になりたいです。



ショッピングモールで開催されたパブリックビューイングで学生が実施した「ヴォルターズリズム体操」指導の様子



賑やかな末永准教授の研究室ドア

運動をする上での 課題解決や 合意形成の大切さを 伝えたい

教職大学院2年
陣内 亮平さん
Ryohei JINNOUCHI



学部での卒論では、球技を使った課題解決学習を研究。子どもたちが、何が課題なのかを把握しやすい教材を使い、その課題を解決して新たに簡単にしたゲームを実施、そこにまた課題を見つけるという解決学習のサイクルを、技能向上や学びにつなげる検証を行いました。現在は、課題解決学習に加え、積極的に授業に参加してくれるような授業デザインを研究しています。たとえば球技のルールを能力の差に関係なく参加できるようにものにする、話し合いの時間を設定するなど。話し合いでは、運動が苦手な子も積極的に発言できる視点を準備するなどの工夫を考えています。

私が目指しているのは高校の体育教師。高校は、体育を学ぶ最後の期間です。社会に出た後にスポーツをするとしても、同じレベルの人だけが揃うことはありません。苦手な人も参加できる、合意形成しながらスポーツを楽しむにはどうするか、そういったことを伝えられる授業ができればと思っています。



2024年に熊本大学で行われた学会で発表された、末永准教授と学生のポスター



なんでも話し合える研究室仲間



■学生たちがお弁当を企画販売！

熊本ヴォルターズ選手に食の好みをヒアリングし、桜十字の管理栄養士さんから指導を受けて、熊本県産の食材だけを使ったお弁当を企画。和水町の業者さんに製造してもらい、試合会場や学内の売店での販売も学生が行いました。



卒業生 ジャーナル



国内外の様々な分野で活躍する熊本大学の卒業生たち。
彼らはどんな学生時代を過ごし、どんな夢を持ち社会に出て、
今、どんな世界で頑張っているのでしょうか。

薬学部

富田 莉花

Rika TOMITA



勤務先

熊本県南広域本部 保健環境福祉部(熊本県)

卒業

薬学部薬学科 / 2020(令和2)年3月卒業

Profile

1994(平成6)年生まれ。熊本県熊本市出身。
熊本県立熊本高等学校卒業。趣味は編み物など。

研究生活で人見知りを克服

今は、行政薬剤師として日々奮闘

生物が好きだったこともあり、大学では、海綿や真菌などの天然資源から新規化合物の探索を行う研究室に入りました。人見知りで、人前で話すことが大の苦手でしたが、研究室での研究成果報告や学会発表等を通して、大勢の前で話す力が鍛えられました。先生方や技術補佐員の方など、同世代以外の方々と接する機会が多かったことも、人見知りを克服できた理由の一つだと思います。大学5年生の薬局での実習中に、県庁で働いている薬剤師の方と話す機会があり、行政という選択肢があることを知りました。それまでは薬局や病院での就職を考えていましたが、より幅広い分野でより多くの人の役に立つ仕事がしたいと思い、行政薬剤師の道を選びました。

現在は、食品や生活衛生、環境にかかわる仕事をしています。医薬品に直接携わることはあまりありませんが、薬学に加え、環境衛生や微生物学など、学んだ多くの知識を生かしながら仕事に取り組んでいます。細かなことであっても、大学時代に経験したことは社会に出てから生かされます。これから進学する皆さんは、講義や研究室、アルバイト、サークル、友人との遊びなど、いろいろなことを経験し、充実した学生生活を送ってください。

教育学部

岩田 祐美

Yumi IWATA



勤務先

芦北町立佐敷小学校 養護教諭(熊本県)

卒業

教育学部養護教諭養成課程 / 2020(令和2)年3月卒業

Profile

1997(平成9)年生まれ。熊本県熊本市出身。私立真和高等学校卒業。趣味はホットヨガ、旅行、写真撮影も好きです。休日は自然豊かな場所へ行ったり、料理やドラマを見たりして過ごしています。

高校時代からの夢・養護教諭

難しい支援でも絶対あきらめない！

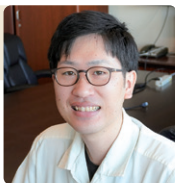
高校時代から養護教諭になることが夢で、養護教育コースがある熊本大学に進学しました。4年生から所属した研究室では、性に関する指導を研究。実際に現場で活躍されている教諭の方々に話を聞き、子どもたちの性に関する課題を生で聴くことができました。今でも性に関する指導研修などには積極的に参加していて、毎回新しい学びが増え、ワクワクしながら保健指導に携わっています。

現代の子どもたちは、複雑化・多様化する社会の中で様々な課題を抱えて生きています。養護教諭の仕事は多岐にわたり、けがや病気の手当てはもちろん、不登校やSNSトラブル、虐待、愛着形成不足などについても、周りの先生方や関係機関と協力して支援を考えています。ただ、子どもたちが抱える複雑に絡み合った課題はすぐには解決しないことも多く、一刻も早く救いたいと思いつつ、支援の難しさも感じます。しかし養護教諭になったのは、中学時代、変化に気づいていたのに友人を救えなかった自分の経験があったから。この経験が、あきらめずに仕事ができる原動力です。子どもの笑顔はとてもうれしいし、ときに奇想天外なこともあります。子どもらしい発想や言動に日々癒されています。

工学部

山口 亮

Ryo YAMAGUCHI



勤務先

株式会社フジクラ 光機器開発部(千葉県)

卒業

工学部機械システム工学科 / 2013(平成25)年3月卒業
大学院自然科学研究科博士前期課程機械システム工学専攻 / 2015(平成27)年3月修了

Profile

1990(平成2)年生まれ。佐賀県嬉野市出身。佐賀県立鹿島高等学校卒業。趣味はサッカー、フットサル、キャンプ。昨年第二子が生まれ、二人とも男の子なので将来一緒に趣味を楽しむことを期待しながら成長を見守っています。

光通信に欠かせない光コネクタ開発

頑張りが業績に直結することにやりがい

工学部では熱工学研究室に所属し、大学院でも同研究室に所属。ヒートパイプに使われているサーマルウィッグの熱伝導率評価を行っていました。就職先のフジクラもヒートパイプを手掛けており、研究室の小糸康志准教授がフジクラのフォーラムに毎年招待されている関係から、私もフォーラムに参加する機会がありました。その際、フジクラの方の人柄に惹かれ、一緒に働きたいと思ったことが入社のかっけです。現在はデータセンタ等に使われる多芯の光コネクタ開発に従事。既存製品の生産数量拡大や歩留まり改善、抜本的な生産方法の改革のほか、より小型な新規製品の開発や立上げを行っています。最先端技術が要求されるだけでなく、自身の頑張りが会社の業績に直結することにやりがいを感じています。

将来何をしたいのかわからなくても、今の自分の興味に従って進んでいけばいいと思います。やりがいことにこだわると、むしろ人生の選択肢は少なくなっていきます。いろいろなことを経験し、どういった環境でも活躍できるような問題解決能力を養ってください。その先で自分が幸せになれるには、どんな人とどんな場所で働くか、その選択として就職先を選んでいただければと思います。

医学部

浦田 和美

Kazumi URATA

勤務先

荒尾市立有明医療センター・皮膚科(熊本県)

卒業

早稲田大学教育学部英語英文学科／2008(平成20)年3月卒業
熊本大学医学部医学科／2019(平成31)年3月卒業
医学教育部博士課程医学専攻／2024(令和6)年3月修了

Profile

1982(昭和57)年生まれ。熊本県荒尾市出身。熊本県立玉名高等学校卒業。趣味はヨガやマラソンなど。旅行も好きで、インドでヨガインストラクターの資格を取得しました。今年はホノルルマラソンに出場予定です。



証券会社勤務から一転、医師を志す 尊敬する指導医のもと皮膚科医に

早稲田大学卒業後は東京で証券会社に就職。しかし2008年のリーマンショックで市況が厳しくなり、頑張ってもお客様に喜んでいただけることのない日々に関々とするなか、営業先のクリニックで、医師と患者さんの会話がとても温かく印象に残りました。それが、医師を目指すようになったきっかけです。

熊本大学医学部医学科在学時、皮膚科の実験員アルバイトで、皮膚がんの一種である乳房外パジェット病の患者さんの組織を使う実験に従事。そこで出会った指導医のすばらしい指導のもと、実験は論文となり、学会発表となり、実際の患者さんに用いられることもありました。医師国家試験に落ちたことがあったのですが、その時も指導医が「仕事で聞え」と山盛りの課題をくれ、涙を拭いて書いた論文があって、数年後に新人賞を受賞したことは今も忘れられない思い出です。皮膚科を選んだのも、尊敬する指導医のもとで仕事をしなかったから。でも、目に見える皮膚の変化に向き合うというダイナミックな部分で、好奇心旺盛な自分に向いていると感じます。失敗したり恥をかいたりしても、涙を拭いて目の前の勉強や仕事に向き合っている、思いがけない道が開けてくれることがよくあります。苦しみがあるからこそ、すてきな出会いや転機に気付けると思っています。

法学部

小山田 梨紗

Risa OYAMADA

勤務先

熊本地方裁判所(熊本県)

卒業

法学部法学科／2015(平成27)年3月卒業

Profile

1991(平成3)年生まれ。熊本市出身。熊本県立熊本高等学校卒業。二児の母として子育てに奮闘中。



適正迅速な裁判の実現に向けて チームワークで挑む毎日

高校時代、世の中のすべての根幹に法律があると感じ、自分を守るために法を学びたいと思ったことがきっかけで、高校3年生で理系から文系に進路を変更しました。在学中は法学部だけでなく、他学部の授業も積極的に受講し学べる環境をフル活用。卒業時には高校の教員免許も取得し、最多単位賞で表彰していただきました。書道部、バドミントン、志法会(法律勉強サークル)での活動のほか、ロードバイクで熊本市と山鹿市を弾丸で往復したり、登山したり、フルマラソンを完走したり、民間のインターンシップに参加したりと、いろいろなことに挑戦した学生時代でした。

裁判所には、裁判部門と司法行政部門があります。現在の部署では、所長の秘書的業務や裁判官への研修企画など多岐にわたる業務に従事。六法をはじめ、各種法律等を根拠に日々仕事をしています。中立公正な立場で来庁者と向き合い、適正迅速な裁判の実現に向けて、裁判官・書記官・事務官がチームで仕事をしていくことが裁判所の魅力です。

学生のみなさんには、大学という貪欲に学べる環境で、思いっきり学んで、思いっきり遊んでほしいです。その経験が人生をより深く豊かにしてくれるはず。応援しています。

文学部

森 悠統

Yuto MORI

勤務先

対馬市教育委員会 文化財課(長崎県)

卒業

文学部歴史学科(考古学専攻)／2021(令和3)年3月卒業

Profile

1998(平成10)年生まれ。佐賀県武雄市出身。佐賀県立武雄高等学校卒業。料理と海外旅行が好きで、週末には世界各国の料理に挑戦。対馬で暮らして5年。消防団や市民劇団など地域の活動にも参加し、仕事以外の繋がりを広げています。



学生時代の発掘調査がきっかけで就職 対馬の遺跡の整備や保護を担当

大学1年生の4月に考古学の講義を受け、講義後に先生を訪ねた事がきっかけで、配属前から考古学学生研究室にお邪魔していました。卒業論文では中・近世の博多遺跡群から出土したイルカやクジラの骨に残る解体痕を基に、当時の鯨類がどのように流通・利用されていたかを研究しました。また、発掘調査を通して、対馬で韓国の大学と共同調査をしたり、モンゴルで約2週間の草原暮らしをしたりなど、得難い経験もしました。発掘調査がきっかけで対馬に興味を持ち、幸運にも、私が就職を考えていた4年生の時に文化財専門職の募集があり、現職に就くこととなりました。

現在は、遺跡やその他文化財の保護に関する業務を担当しています。先人たちが調査した遺跡の整備や、遺跡が壊されないために、行政の開発担当者や民間事業者との調整を実施しています。また、新規遺跡を発見し、保護していくことも業務の一つです。こうした仕事の武器が、大学時代に考古学で得た経験だと考えています。考古学とは、土器や石器といった考古資料だけでなく、自然科学や民俗学、生物学など幅広い知識を駆使して研究する学問です。多角的な視点から歴史を復元していく考古学を経験したからこそ、あらゆる分野の専門書に躊躇なく飛びつくことができるのだと思います。

理学部

大塚 陸也

Rikuya OTSUKA

勤務先

ENEOS株式会社／ENEOS do Brazilに出向(ブラジル)

卒業

理学部理学科(地球環境科学)／2019(平成31)年3月卒業
大学院 自然科学研究科博士前期課程理学専攻／2021(令和3)年3月修了

Profile

1996(平成8)年生まれ。福岡県みやま市出身。福岡県立山門高等学校卒業。ゴルフやサッカーをしたり、海外ドラマを見るのが好きです。



現在は海外で市場開拓を担当 自分の戦略が市場に表れる醍醐味

多様な分野に触れられることが魅力で、一学科制の熊本大学理学部に進学しました。その中で地球環境科学に惹かれ、特に興味を持ったのが、地層や岩石を通じて地球の歴史や環境変動を読み解く地質学。松田博貴先生の研究室に所属し、「炭酸塩岩の続成作用」をテーマに、岩石の形成過程や堆積環境の変遷を科学的に読み解く研究に取り組みました。また、石油探査企業に勤務経験がある松田先生から聞く、億単位の資金をかける掘削における調査と意思決定の話などは非常に刺激的で、「研究が産業に直結している」というリアリティを感じる瞬間でした。

当初は石油探査の現場に魅力を感じていましたが、次第に、資源の採掘だけでなく、その精製や、製品として社会に届ける「バリューチェーン全体」に関心を持つように。その中で、探査から精製・販売までを一貫して手がけるエネルギー総合企業であるENEOSのスケール感に惹かれ、就職しました。現在は南米拠点であるENEOS do Brazilに出向し、南米地域における潤滑油の市場開拓を担当しています。トヨタなどOEMメーカーへの純正オイル供給を中心に、製品開発、輸入経路の確保、価格や販売戦略など、幅広い業務に従事。自分が考えた戦略を実行し、その結果が市場で数字として返ってくるというダイナミズムを日々感じています。

熊本大学 ネーミングライツパートナー募集!

熊本大学では、熊本大学の施設に、企業名や商標名、企業のロゴやシンボルマークなどを掲載するネーミングライツパートナーを募集しています。企業や商品のPRやリクルートに活用でき、かつ、熊本大学の応援にもつながるネーミングライツをぜひご検討ください!

ネーミングライツ公募は2種類

■施設指定型

本学が指定する福利施設、体育館、図書館、講義棟および課外活動施設など、施設全体が広く共同利用される建物等が対象です。

■スペース指定型

本学が指定する福利厚生スペース、体育活動スペース、図書関係スペース、課外活動スペース、セミナー室や演習室などの広く共同利用されるスペースが対象です。

現在契約中のネーミングライツ事業



愛称
ひご未来図書館・
HigoBank Learning Commons
施設等名 ▶ 附属図書館中央館
パートナー ▶ 株式会社肥後銀行



愛称
東京エレクトロン
イノベーションプラザ
施設等名 ▶ イノベーションプラザ
パートナー ▶ 東京エレクトロン九州株式会社



愛称
VOLTERS GX
施設等名 ▶ 渡鹿体育館
パートナー ▶ 熊本バスケットボール株式会社
株式会社桜十字



愛称
KDS コミュニティプラザ
施設等名 ▶ 北地区学生会館A棟
パートナー ▶ 株式会社KDS熊本ドライビングスクール



愛称
TKU x MYSTIA カフェテリア
施設等名 ▶ FORICO
パートナー ▶ 株式会社マイスタ
株式会社テレビ熊本



愛称
KMバイオロジクス体育館
施設等名 ▶ 大江体育館
パートナー ▶ KMバイオロジクス株式会社



愛称
KMバイオロジクス講義室
施設等名 ▶ 医学教育図書棟(第1講義室)
パートナー ▶ KMバイオロジクス株式会社



愛称
くまトヨ講義室・くまトヨロビー
施設等名 ▶ 文学部本館
(A2講義室・学生ロビー)
パートナー ▶ 熊本トヨタ自動車株式会社



愛称
アネシスラウンジ
施設等名 ▶ 工学部1号館
(リフレッシュホール6F-W・
リフレッシュホール6F-E)
パートナー ▶ 株式会社アネシス



愛称
アカリクラウンジ
施設等名 ▶ 共用棟黒髪7
(ラウンジ1・ラウンジ2・ウッドデッキ)
パートナー ▶ 株式会社アカリク



愛称
くまぎん Square
施設等名 ▶ 全学教育棟(D棟学生ロビー)
パートナー ▶ 株式会社熊本銀行



愛称
ヒライ自習室・
ヒライ ちくわサラ太くん リフレッシュルーム
施設等名 ▶ 文学部本館
(法学部学生自習室・リフレッシュルーム)
パートナー ▶ 株式会社ヒライ



愛称
カーボンニュートラル学修室
施設等名 ▶ ひご未来図書館
(グループ学修室1)
パートナー ▶ 西部ガス熊本株式会社



愛称
学研・市進講義室
施設等名 ▶ 教育学部本館(2-B講義室)
パートナー ▶ 株式会社市進ホールディングス

■お問い合わせ

熊本大学 施設部施設企画課 資産管理担当
Tel 096-342-3161
E-mail. sis-sisan@jimu.kumamoto-u.ac.jp

■詳しくは、HPをご覧ください。

ネーミングライツパートナーの募集 | 熊本大学
<https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/shisetu/df35hn>



熊本大学基金よりお知らせ

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.67(令和7年5月1日～令和7年8月31日)

熊本大学基金に対しまして、深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

皆様からのご寄附は、本学の教育研究の充実、学生支援、環境整備等、幅広く活用させていただいております。

今号では、令和7年5月1日から令和7年8月31日までの間に入金を確認させていただきました個人165名、31法人・団体のすべての寄附者の皆様へ感謝の意を含め、ご芳名を掲載させていただきます。また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金運営室(電話:096-342-3129)までご連絡ください。

皆様の更なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

※お名前・寄附金額の公開の許可をいただいた方のみ、寄附金額別、五十音順、敬称略にて掲載させていただきます。

※()内の数字は、累計寄附金額(万円)、[]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

■令和7(2025)年5月

1. お名前・寄附金額の掲載

【400万円】 桑野 幸徳(1122)
【10万円】 宮尾 千加子(51)
【5万円以下】 宮本 真次(13.8) シモダ印刷株式会社(25)

2. お名前のみ掲載

荒井 澄子[13] 池田 英世[5] 市原 一也[1] 猪俣 紘一郎[9]
衛藤 光明[23] 大迫 聖子[5] 奥 輝之[5] 川村 美好[1]
木村 純久[15] 楠田 靖紀[5] 島本 勝[1] 副島 修[2]
千島 英一[12] 吹上 安伸[7] 松山 謙志[3] 森 正人[3]
吉永 壮佐[3] 株式会社WiLvy[1] 株式会社肥後銀行[13] 株式会社久仲工建[6]
東京エレクトロン九州株式会社[10] リーブ株式会社[1]

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人25名

■令和7(2025)年6月

1. お名前・寄附金額の掲載

【25万円】 徳測 昭代(28)
【20万円】 藤岡 明(50)
【10万円】 松田 泰治(10)
【5万円以下】 小貫 治朗(7.5) 眞田 功(20) 首藤 剛(10)
松尾 敏之(17) 宮本 真次(14.1) 渡邊 勉(8)

2. お名前のみ掲載

奥 輝之[6] 小田 けい子[1] 神崎 芳郎[13] 草野 龍二[21]
久米 匡[1] 倉澤 剛太郎[5] 庄司 重樹[1] 高宗 俊雄[9]
立花 昭生[14] 田上 将太郎[2] 徳永 恵理子[1] 西川 毅[7]
波多野 恭行[39] 堀野 敬[11] 本多 邦雄[16] 松井 久実[1]
宮崎 誠[1] 株式会社コーチ&リサーチ[1] 株式会社ダイセル[5]
株式会社ヒライ・コンサルタント[2] 株式会社フジタ九州支店[1]
株式会社明和不動産[4] 有限会社福島文隆堂[7]

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人22名、7法人・団体

■令和7(2025)年7月

1. お名前・寄附金額の掲載

【10万円】 ヤマシタヘルスケアホールディングス株式会社(10)
【5万円以下】 福田 俊幸(12) 本多 邦雄(37) 宮本 真次(14.5)

2. お名前のみ掲載

上城 洋一[8] 河村 久幸[7] 北山 洋一[6] 児倉 静二[23]
齊藤 和人[6] 戸上 勝喜[5] 中嶋 洋[1] 若林 秀樹[1]
エデュニア株式会社[1] 株式会社秀拓[3] 株式会社琉球保安警備隊[3]

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人25名、1法人・団体

■令和7(2025)年8月

1. お名前・寄附金額の掲載

【100万円】 熊本大学医学部保健学科同窓会(500)
【50万円】 熊本医学会(650)
【10万円】 鬼ヶ原 浩二(17) 清原 由紀夫(122)
【5万円以下】 池田 勇(11) 藤村 重利(9) 宮本 真次(14.9)
熊本大学医学部医学科後援会(2864)

2. お名前のみ掲載

荒井 澄子[14] 猪俣 紘一郎[10] 木村 英美[3] 菅坂 誠夫[3]
田村 知代[3] 遠山 栄二[4] 深田 章[3] 山田 康代[6]
熊本大学医師会[8] Japan Advanced Semiconductor Manufacturing株式会社[3]

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人23名



活動報告は
こちら

熊本大学クラウドファンディング 多くのご寄附・ご支援をいただき、以下のとおり達成いたしました。

プロジェクト名 医療人材育成と検査体制の強化を。【熊本の未来を築く】感染症対策へ！

募集期間：2025/4/1(火)～2025/5/30(金)

寄附総額：3,063,000円

寄附者数：111名

芳名掲載先：<https://readyfor.jp/projects/cbls-seitai>

※支援者様のご芳名は、プロジェクトページの「活動報告」に掲載しております。

基金の取り組み事項については、基金ウェブサイトに掲載しております。

熊本大学基金ウェブサイト 【URL】<https://kikin.jimu.kumamoto-u.ac.jp/>

熊本大学基金

検索



熊本大学メールマガジン登録受付中！

熊本大学のニュースやイベント情報、最新の研究成果、WebマガジンやYouTubeの更新情報等をお届けしています。ぜひご登録ください！

登録方法は
こちらをご覧ください



熊本大学公式SNS

熊本大学の最新情報はここから！

X(旧 Twitter)



YouTube



Instagram



広報Webサイト

ウェブマガジンなど
様々なコンテンツを掲載！

Kumadai Now
熊大なう。





キャンパス ミュージアム 散策

絵・文
松永拓己
大学院教育学研究科
教授・芸術家

工学部研究資料館

〒860-8555

熊本市中央区黒髪2丁目39番1号

TEL 096-342-3513

[開館] 毎月第3木曜日13:00~16:00

(重要文化財機械類を動かします)

※他、学園祭、学部内行事等の機会に不定期開館します。

入場無料

交通機関

バスをご利用の場合

「熊本大学前バス停」下車徒歩1分

赤い壁

熊本大学内の小道をゆく。

バス通りから黒髪南キャンパスに入ると、ひときわ印象的な赤煉瓦の建物が目に入る。国の重要文化財の工学部研究資料館である。

中に入ると吹き抜け天井の大空間の中、迫力ある大型機械が整然と並んでいる。黒光りしている。手入れが施されているのがよく分かる。天井にも駆動機械のシャフトやベルトが縦横に這っている。スイッチを入れるとあちこちからウインウインとリズムカルにメカニカル音が響き渡る。明治期から錆びつくことなく今でも動く、11台の黒鉄色の重要文化財群である。それぞれ機械構造の異なるものばかりであり、独逸製、亜米利加製、英吉利製と鎮座している。

外へ出ると、建物の壁面は日差しとともに、アッシュレッドの落ち着き深く鮮やかな色合いを見せている。夕刻には斜めの日差しが建物の起伏の豊かな造形を浮かび上がらせてくれる。意匠を重視したであろう丸窓は建物を愛らしく見せ、アーチ型の窓も張り出した直柱もリズムカルにアクセントを刻んでいる。西側の巨大で武骨な1枚赫壁面が夕焼けに照らされ、歴史を帯びた煉瓦はライトレッドに染まりまばゆい。朝の澄んだ空気も、夕方のまどろみも、どの角度も時間も絶好のロケーションである。

時には工学部の建物の造作に気概を感じ、ロジックよりロマンを味わう。明治の風景が心に溶け込むのにちょうどよい時間を過ごす。

